

# ブナセンター館長に

# 鈴木和次郎氏が就任

地域の財産を掘り起こす作業(蒲生地区のブナのアがり)調査



只見町ブナセンター館長に鈴木和次郎氏が採用されました。委嘱状交付式は4月21日に役場本庁の町長室で行われ、目黒町長から鈴木氏に委嘱状が手渡されました。その後、着任式が議場で行われ、目黒町長は「昨年より指導いただきしており、これからは館長として活躍いただき。この只見から世界が抱えている環境問題や取り組みについて情報発信していきたい。自然環境調査や資料収集など、様々な活動の展開をお願いしたい」とあいさつを述べました。続いて、鈴木氏が就任のあいさつをされ終了しました。前任者の河野昭一氏には、ただみブナと川のミュージアム名誉館長として引き続きご指導いただきます。

新たに館長となられた鈴木氏に、これからのブナセンターの運営方針や活動計画などについてのお考えを伺いましたので、ご紹介いたします。



## 鈴木 和次郎 すずき・わじろう

前職は独立行政法人森林総合研究所(茨城県つくば市)主任研究員。農学博士。専門は森林生態学、造林学。溪畔林研究会、森林施業研究会の代表を務めた。その成果は、持続可能な森林管理や水辺林の保全、希少樹種の生態と保全技術の開発、自然林の再生技術などの普及に貢献した。『水辺林管理の手引き』『溪流生態砂防学』『環境修復のための生態学』などの共著や論文多数。

## 震災二負ケズ、 原発二モ負ケズ

8年前、伊南川流域でユビソヤナギの自生地を発見した時、只見町のブナセンターで働くことになるとは夢にも考えていませんでした。それ以降、前の職場(独立行政法人・森林総合研究所)で進めていた環境省の希少樹種研究プロジェクト調査に関わり、その分布と生態を把握するため只見町をたびたび訪れるようになりました。その度に驚かされたのは、只見町の自然の豊かさと奥の深さでした。中でも感動したのは、雪によって削り取られた山肌に張りついている多様なモザイク状の植生とその圧倒的な広がりです。こうした自然環境が只見町の皆さんの闘いと努力によって守られてきたという歴史を知り、感銘を受けました。

言うまでもなく、只見町ブナセンターは、只見

町の豊かな自然環境を守りながら、情報発信・交流の拠点として活動し、地域社会の発展に寄与することを目的に設置されています。こうした活動に欠かせないのが、只見町の自然環境の実態を知るための基礎調査です。これは「ブナと川のミュージアム」の調査活動として、大学や研究機関と連携して進めていきたいと考えています。その他にも、ブナをテーマとした特別展示や講演会、自然観察会なども企画していますので、ぜひ見に来てください。また、自然や環境に関する質問や問題がございましたら、気軽にご相談ください。可能な限りの情報提供に努めたいと思います。

3月11日に発生した東日本大震災は、東北の太平洋沿岸に有史以来、最大の被害をもたらしました。その後の原発問題は、地域社会の心を深く傷つけ、さらには福島県、そして日本にも暗い影を落としています。しかし、只見町の豊かな自然は、人々の心を癒し、普遍的な価値の有り様を教えてくれるに違いありません。只見町ブナセンターは、そのインターフェース的な役割を担って行くものと思います。私の前任で、現在、ただみブナと川のミュージアム名誉館長である河野昭一先生は、私の恩師です。その後任としては、いささか荷が重いのですが、精一杯努力し、町民の皆さまの期待に応えていきたいと思っています。町民の皆さまのご支援とご協力をお願いします。